

国語科教員養成課程で出会う『枕草子』

坂東 智子

The Pillow Book As a Teaching Material in a Language Arts Teacher Training Course

BANDO Tomoko

(Received January 7, 2014)

キーワード：伝統的な言語文化の指導、枕草子、小中高共通教材、国語科教員養成課程

はじめに

国文学研究面における枕草子は、源氏物語に比べ「読まれない」作品としての評価が定着している。三田村雅子（1982）は『日本文学』（昭和57年2月）「枕草子研究の足踏み」と題する中で、当時の枕草子研究の停滞ぶりを告発している。藤本宗利（2001）は枕草子研究史を概観する中で、三田村発言のあった昭和57年版『国文学年次別論文集』における枕草子と源氏物語に関する論考数を比較し、前者が19編であるのに対して後者は132編であったと報告する¹⁾。論考数という単純な量の比較によっても、枕草子研究の劣勢は顕らかである。こうした研究面での状況は現在でも大きくは変わっていない。しかし、その一方で、小学校・中学校の古典教材としての扱いという面では、両者の関係は反転する。

周知のことではあるが、平成20年3月28日に新学習指導要領が告示され、小学校・中学校の国語科に〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設された。これに伴い、平成23年版小学校国語教科書には、昔話や俳句、狂言、いくつかの古典作品が新たに採録された。例えば、枕草子初段「春はあけぼの」は、平成23年版小学校国語教科書全社に、平成24年版中学校国語教科書全社に採録されている²⁾。それに対して、源氏物語「桐壺」巻は、平成23年版小学校教科書には1社も掲載がなく、平成24年版中学校教科書5社のうち、光村図書、教育出版、三省堂の3社に採録されるにとどまっている³⁾。新教科書で学ぶ小中学校の生徒にとって、日本を代表する古典といえ、枕草子「春はあけぼの」ということになるのであろう。また、国語科教員を目指す学生達にとっては、将来小中高のいずれの校種の教員になっても、教える可能性が最も高い古典作品が枕草子であるといえるだろう。

1. 本稿の目的

筆者は、平成24年度、平成25年度「国文学演習Ⅱ・国文学Ⅱ演習」（いずれも後期、主たる受講者は国語教育選修と文芸・芸能コースの学部2年生）で枕草子を演習教材とした授業を行っている。枕草子を演習対象とする理由は、先に述べた通りである。岡田潔（2001）はかつて、「高等学校国語科の古典教材として、枕草子をどう扱うか。これはひとえに、教授者が枕草子をどう『読む』かにかかってくる」⁴⁾と述べた。これは現在では、「小中高国語科の共通古典教材として枕草子をどう扱うか。これはひとえに、教授者が枕草子をどう『読む』かにかかってくる」と換言されなければならない状況が生まれているのである。

本稿の目的は、2年間の演習授業（平成25年度は11回を終えた段階）を振り返り、平成24年度の反省から行った授業改善の成果と課題を検討することである。その過程で、小中高共通古典教材としての枕草子の教材価値を再発見するとともに、国語科教員養成課程の教科科目（中学校国語）である「国文学演習Ⅱ・国文学Ⅱ演習」の今後の授業の進め方、改善の方向、具体的な改善点を見出すことができると考えている。

2. 「国文学演習Ⅱ・国文学Ⅱ演習」（平成24年度後期）の実際

2-1 授業の概要

授業初回オリエンテーション（2012/10/04）で配布した資料をもとに授業概要を以下に述べる。

（1）授業のねらい

国語科教師に必要な古典教材の分析読解力を身につけ、これをもとに授業（案）を構想して発表し、それについての協議を行い省察することで、古典教材（『枕草子』）についての理解を深め、国語科指導の実践的力量を養う。

（2）日程

	日時	概要	中心教材：『枕草子』
1	10月4日	授業のねらいと方法（班決め）	作品・指導基礎研究
2	10月11日	授業のねらいと方法（分担決め）	音読・スピーチの会
3	10月18日	演習① 研究発表と協議	
4	10月25日	演習② 研究発表と協議	
5	11月1日	演習③ 研究発表と協議	
6	11月8日	演習④ 研究発表と協議	
7	11月15日	演習⑤ 研究発表と協議	
8	11月22日	附属山口中学校研究発表大会	演習前半振り返り、後半準備
9	11月29日	演習⑥ 研究発表と協議	
10	12月6日	演習⑦ 研究発表と協議	
11	12月13日	演習⑧ 研究発表と協議	
12	12月20日	演習⑨ 研究発表と協議	
13	1月10日	演習⑩ 研究発表と協議	
14	1月17日	月曜日授業の振替	
15	1月24日	授業のまとめ	

（3）演習を通して考えること

『枕草子』に描かれた世界と現実の世界との差をどのように受けとめるか。

*『枕草子』には、書かれた世界と書かれなかった世界がある。

長徳元年4月、中宮定子の父・道隆の死以前とそれ以後の現実の明暗と『枕草子』に描かれた世界の関係を考えることで、『枕草子』の本質に迫る。

（4）演習の担当箇所

『枕草子』（小学館・新編日本古典文学全集）の段を順番に担当する。（日記的章段）

	担当箇所	頁数	推定される記事年次	
演習①	177段「宮にはじめてまゐりたるころ」 はじめ～310頁8行目「まゐらせ給ふ」まで	4.5頁	正暦4年 (993) ごろ	中関白家の隆盛期
演習②	21段「清涼殿の丑寅の隅の」 はじめ～53頁の3行目「書きけがしなどしたるあり」まで	4.5頁	正暦5年 (994) ごろ	
演習③	280段「雪のいと高う降りたるを」 293段「大納言殿まゐりたまひて」	1頁 2.5頁	〃	
演習④	78段「頭中将のすずろなるそら言を聞きて」 はじめ～138頁5行目「いそぎ立ちたまひぬれば」まで	4.5頁	長徳元年 (995) ごろ	
長徳元年4月 中宮定子の父道隆死去				

演習⑤	137段「殿などのおはしまさで後」 はじめ～263頁7行目「かはりたる御けしき もなし」まで	4頁	長徳2年 (996) ごろ	清少納言里居のこ ろ
演習⑥	259 段「御前にて人々とも」	3.5頁	〃	
演習⑦	130段「頭の弁の、職にまゐりたまひて」	3頁	長徳3年～ 長保元年の間	職の御曹司 今内裏 三条の宮のころ
演習⑧	131段「五月ばかり、月もなういと暗きに」	3頁	長保元年 (999) ごろ	
演習⑨	6段「大進生昌が家に」 はじめ～36頁うしろから2行目 「笑はせた まふ」まで	4頁	〃	
演習⑩	223段「三条の宮におはしますころ」 224段「御乳母の大輔の命婦」 225段「清水に籠りたりしに」	1頁 1頁 1頁	長保2年 (1000) ごろ	

(5) 発表資料の作り方

1. 表紙 授業名 演習日 グループメンバー名 作品名 担当章段
2. 参考資料
 - ①登場人物の解説（補助資料：系図など）
 - ②用語解説（補助資料：図説など）
 - ③本文と現代語訳＋教材分析（観点を示す）
 - ④本文関連資料（引用されたり踏まえられた和歌や漢詩の説明など）
 - ⑤授業構想
 - a 傍注テキスト（授業用・範読・音読）
 - b 授業略案（1時間分）
 - c ワークシート
 - d 板書計画

(6) 参考文献

- 松尾聡・永井和子校注・訳 新編日本古典文学全集18『枕草子』小学館 1997年
- 池田亀鑑校訂『枕草子』岩波書店 1962年
- 渡辺実校注 新日本古典文学大系25『枕草子』岩波書店 1991年
- 上坂信男ほか全訳注 講談社学術文庫『枕草子（上中下）』講談社 1999～2003年
- 萩谷朴校注 新潮日本古典集成『枕草子』新潮社 1977年
- 田中重太郎ほか 『枕冊子全注釈』角川書店 1972年
- 萩谷朴 『枕草子解環』同朋舎出版 1981年
- 枕草子研究会 『枕草子大事典』勉誠出版 2001年
- 『日本国語大辞典』小学館 2006年
- 山中裕 『平安朝の年中行事』塙選書 1972年
- ビギナーズ・クラシックス 角川ソフィア文庫『枕草子』角川書店 2001年
- その他 山口大学総合図書館に約50冊の『枕草子』関連書籍がある

2-2 授業の実際

(1) オリエンテーション

1回目と2回目は、教員が担当した。1回目はオリエンテーションとして、授業のねらい、これまでの枕草子研究における課題、演習の担当箇所、資料の作り方、枕草子の伝本、初段「春はあけぼの」の伝本による異同、大村はま式傍注テキスト作成の仕方について説明を行った。演習回数は10回とし、5グループで各2回ずつ担当することとした。演習担当箇所は章段順ではなく、中宮定子の父道隆生存中の中関白家隆盛期と死後の不遇期に分け、推定される記事年次順に日記的章段から10箇所を教員が選定した。また、枕草子研究の最大の課題である、枕草子に描かれた世界と現実の世界との差をどのように受けとめるかを一人一人が考えていくことを、演習全体を通した課題として設定した。

2回目も教員が担当。「汗」に着目して同時代の源氏物語との文体、表現の違いについて講義を行った。源氏物語の汗は流れるものと表現され、枕草子は「あゆるもの」（滴るもの。粒状のイメージである）ことを、それぞれの作品の汗の用例を複数あげて説明した。枕草子では、汗は機知と関係し、道隆没後の章段では汗という記述は見あたらないこと、「汗あゆ」は中関白家賛美の一方法になっているのではないかと指摘する先行研究があることも紹介した。

(2) テキスト

- ・池田亀鑑校訂『枕草子』（岩波書店、1962）を受講者各自が購入。
- ・松尾聡・永井和子校注・訳『新編日本古典文学全集18枕草子』（小学館、1997）は演習担当グループに貸し出した。

(3) 受講者数、班分け

受講者は34名。5グループに分けた。1グループ6～8人となった。グループ分けは受講者の希望を優先。但し資料作成や発表準備をスムーズに進めるため連絡が取りやすいもの同士であることを条件とした。

(4) 資料作成

資料は、オリエンテーション時に示したものを作成するように指示した。資料作成は、発表のためだけでなく、資料を作成する過程で、担当箇所の内容理解が確実になり、授業を構想する基礎となるためである。発表日前日までに資料を提出し、印刷は教員が行った。

2-3 授業の反省

以下に、主な成果と問題点をあげる。

(成果)

- ・演習を2回ずつ担当。資料の作成を通して、古典教材分析の方法を知り教材分析の基礎力を養った。
- ・これまで触れることの少なかった章段の内容や背景、引用された和歌や漢籍の知識を得ることができた。
- ・枕草子には、書かれた世界と書かれなかった世界があることを知り、枕草子執筆の意図に思いを巡らすことができた。

(問題点)

- ・テキストとして選定した池田亀鑑校訂『枕草子』（岩波書店、1962）には現代語訳がなかったため、担当章段以外の予習や他の章段への読み広げに活用することが難しかった。
- ・1グループの人数が6～8人と多かったため、資料作成や演習発表の担当者が限定され、グループメンバーの演習参加に偏りが生じた。
- ・選定した演習箇所が長文でありかつ難解な部分が多かったため、全体の内容把握に時間がかかりすぎた。
- ・演習担当箇所をあらかじめ教員が選定したため、受講生自身の自発的な興味関心が起こりにくかった。
- ・演習中盤で、演習資料の作成順や書式を変更したグループがあり、担当箇所の内容理解が部分的になった。
- ・作成する資料項目が多すぎた。そのため発表の焦点が絞りにくく、網羅的な発表になりがちであった。
- ・演習箇所以外の章段を読み、枕草子の全体像を捉える時間を確保することができなかった。
- ・パソコンでの傍注テキスト作成に時間がかかった。そのため、必要な情報を傍注テキストに織込むことが出来なかった。主語を補う、読みがななどは手書きを併用するよう指示する必要があるがあった。

3. 「国文学演習Ⅱ・国文学Ⅱ演習」（平成25年度後期）の実際

3-1 授業の概要

授業初回オリエンテーション（2013/10/03）で配布した資料をもとに授業概要を以下に述べる。

(1) 授業のねらい（平成24年度と同じ）

国語科教師に必要な古典教材の分析読解力を身につけ、これをもとに授業（案）を構想して発表し、それについての協議を行い省察することで、古典教材（『枕草子』）についての理解を深め、国語科指導の実践的力量を養う。

(2) 日程

	日時	概 要	中心教材：『枕草子』
1	10月 3日	授業のねらいと方法（班決め）	作品・指導基礎研究
2	10月10日	授業のねらいと方法（分担決め）	音読・スピーチの会
3	10月17日	演習① 研究発表と協議	担当章段の発表
4	10月24日	演習② 研究発表と協議	〃
5	10月31日	演習③ 研究発表と協議	〃
6	11月 7日	演習④ 研究発表と協議	〃
7	11月14日	演習⑤ 研究発表と協議	〃
8	11月21日	演習⑥ 研究発表と協議	〃
9	11月28日	演習⑦ 研究発表と協議	〃
10	12月 5日	演習⑧ 研究発表と協議	班ごとに選んだ章段を発表（2グループ）
11	12月12日	演習⑨ 研究発表と協議	〃
12	12月19日	演習⑩ 研究発表と協議	〃
13	1月 9日	演習⑪ 研究発表と協議	〃（1グループ）
14	1月16日	月曜日授業の振替	
15	1月25日	授業のまとめ	教員が担当

(3) 演習を通して考えること（平成24年度と同じ）

『枕草子』に描かれた世界と現実の世界との差をどのように受けとめるか。

*『枕草子』には、書かれた世界と書かれなかった世界がある。

長徳元年4月、中宮定子の父・道隆の死以前とそれ以後の現実の明暗と『枕草子』に描かれた世界の関係を考えることで、『枕草子』の本質に迫る。

(4) 演習の担当箇所

『枕草子』（角川ソフィア文庫『枕草子』ビギナーズ・クラシックス日本の古典）

	担当箇所	頁数	推定される記事年次	
演習①	179段「宮にはじめてまゐりたるころ」	189頁	正暦4年 (993) ごろ	中関白家の 隆盛期
演習②	20段「清涼殿の丑寅の隅の」	26頁	正暦5年 (994) ごろ	
演習③	284段「雪のいと高う降りたるを」「あとがき」	219頁 221頁	〃	
演習④	78段「頭中将のすずろなるそら言を聞きて」	99頁	長徳元年 (995) ごろ	
長徳元年4月 中宮定子の父道隆死去				
演習⑤	137段「殿などのおはしまさで後」	164頁	長徳2年 (996) ごろ	清少納言里居
演習⑥	5段「大進生昌が家に」	22頁	長保元年 (999) ごろ	職の御曹司の ころ
演習⑦	223段「三条の宮におはしますころ」 224段「御乳母の大輔の命婦」		長保2年 (1000) ごろ	

・グループごとに選んだ章段

演習⑧	130段 「頭弁、職にまゐりたまひて」 長徳3年～長保元年 (997～999) ごろ	25段 「にくきもの」
演習⑨	91段 「ねたきもの」	95段 「五月の御精進のほど」 長徳4年 (998) ごろ

演習⑩	7段「上に候ふ御猫は」 長保2年(1000)ごろ	27段「心ときめきするもの」
演習⑪	89段「無名といふ琵琶」 長徳3年～長保元年(997～999)ごろ	

(5) 資料の作り方

1. 表紙 授業名 演習日 グループメンバー名 作品名 担当章段
2. 参考資料
 - ①登場人物の解説(補助資料:系図など)
 - ②用語解説(補助資料:図説など)
 - ③本文と現代語訳+教材分析(観点を示す)
 - ④本文関連資料(引用されたり踏まえられた和歌や漢詩の説明など)
 - ⑤授業構想
 - a 傍注テキスト(授業用・範読・音読)
 - b 授業略案(1時間分)

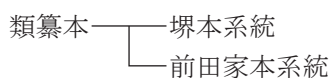
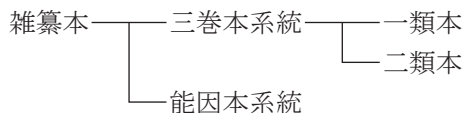
(6) 発表の仕方

1. 傍注テキストを用いた音読(メンバー全員で)
2. ①～②までの発表(担当:メンバーA)
3. ③～④までの発表(担当:メンバーB)
4. ⑤の発表(担当:メンバーC)
5. 質疑応答(司会進行:メンバーD)
6. 講評(担当:坂東)

(7) 参考文献(平成24年度に同じ) 割愛

(8) 枕草子の伝本

○枕草子には、二種四系統の諸伝本がある



*雑纂本……類聚的章段、日記的章段、随想的章段が混ざり合って配列された形態

類纂本……同種章段群がまとめられて配列された形態

*通説

三卷本……原作者の初稿本

能因本……再稿本

堺本……後世の人の改作増補本

前田家本…能因本と堺本との合成本

3-2 授業の実際(平成24年度からの変更点を中心に)

(1) オリエンテーション

1回目と2回目は、教員が担当した。1回目はオリエンテーションとして、授業のねらい、これまでの枕草子研究における課題、演習の担当箇所、資料の作り方、発表の仕方(平成25年度から)、枕草子の伝本、初段「春はあけぼの」の伝本による異同、大村はま式傍注テキスト作成の仕方について説明を行った。演習回数は11回とした(平成24年度は10回)。7グループ(平成24年度は5グループ)で各2回ずつ担当することとした。1回目の演習担当箇所は章段順ではなく、中宮定子の父道隆生存中の中関白家隆盛期と死後の不遇期に分け、推定される記事年次順に日記的章段から7箇所を教員が選定した。2回目の演習担当箇所は、グループごとに選定した。また、枕草子研究の最大の課題である、枕草子に描かれた世界と現実の世

界との差をどのように受けとめるかを一人一人が考えていくことを、平成24年度と同様に、演習全体を通した課題として設定した。

2回目も教員が担当。「汗」に着目して同時代の源氏物語との文体、表現の違いについて講義を行った。

(2) テキスト

- ・角川ソフィア文庫『枕草子』ビギナーズ・クラシックス日本の古典（角川書店、2001）
- ・松尾聡・永井和子校注・訳『新編日本古典文学全集18枕草子』（小学館、1997）は演習担当グループに貸し出した。

(3) 受講者数、班分け

受講者は25名。7グループに分けた。1グループ3～5人。平成24年度は1グループの人数が6～8人と多かったため、グループ内での負担に偏りがあったため（受講者からの申し出があった）、その反省から1グループの人数を基本的に4名とした。グループ分けは受講者の希望を優先。但し資料作成や発表準備をスムーズに進めるため連絡が取りやすいもの同士であることを条件とした（24年と同じ）。

(4) 資料作成

資料は、オリエンテーション時に示したものを順番通り作成するよう指示した（24年度の反省から）。また、資料作成の項目のうち、授業構想は、a 傍注テキスト（授業用・範読・音読）、b 授業略案（1時間分）のみとした。これによって、演習発表の主たる目的を教材分析に置くことが明確になった。発表日前日までに資料を提出し、印刷は昨年度同様、教員が行った。

3-3 授業の反省

以下に、主な成果と問題点をあげる。

(成果)

- ・演習を2回ずつ担当。資料の作成を通して、古典教材分析の方法を知り教材分析の基礎力を養った。
- ・角川ソフィア文庫『枕草子』ビギナーズ・クラシックス日本の古典（角川書店、2001）をテキストとしたことにより、傍注テキストを作成する部分が限定され、資料作成の負担が軽くなった。また、同書の現代語訳は学部2年生にとって親しみやすく、内容理解が容易になった。
- ・これまで触れることの少なかった章段の内容や背景、引用された和歌や漢籍の知識を得ることができた。
- ・2回目の発表は、各グループが自分たちで担当する章段を選び、作成した演習資料をもとに発表を行った。
発表章段を決めるために、テキスト全体に目を通す必要が生まれた。
- ・枕草子には、書かれた世界と書かれなかった世界があることを知り、枕草子執筆の意図に思いを巡らすことができた。
- ・発表の仕方、役割分担案を示したことで、グループ内での負担の偏りが少なくなった。
- ・発表時にグループメンバー全員に音読をしてもらったため、音読練習の時間が増えた。
- ・授業構想の資料は、a 傍注テキスト、b 授業略案（1時間分）のみとした。これによって、演習発表の主たる目的を教材分析に置くことが明確になった。
- ・どの校種の何学年での授業案かを示すように指示したことにより、授業略案が具体的なものとなった。
- ・演習発表後の質疑応答が活発に行われた。

(問題点)

- ・角川ソフィア文庫『枕草子』ビギナーズ・クラシックス日本の古典（角川書店、2001）をテキストとしたことにより、内容理解が容易になった反面、他の参考資料に目を通すことが減ってしまった。先行研究、注釈書によって解釈に揺れがある部分などは、昨年度の方が複数の文献にあたり詳しい検討を行っていた。
- ・2回目の演習箇所は、いわゆる有名章段を選ぶグループが多かった。
- ・図書館を利用して、複数の文献を引用して資料を作成するグループが少なかった。
- ・選定した演習箇所が長文でありかつ難解な部分が多かったため、全体の内容把握に時間がかかりすぎた。
- ・作成した傍注テキストに誤りが多かった。特に、文法事項の間違いが目立った。

おわりに

本稿では、筆者が担当した2年間の「国文学演習Ⅱ・国文学Ⅱ演習」の実際を詳らかにし、平成24年度の反省をもとに行った平成25年度の授業改善の成果と課題を具体的に検討した。

今回の検討結果から見出した国語科教員養成課程の教科科目（中学校国語）「国文学演習Ⅱ・国文学Ⅱ演習」の今後の授業改善にあたっての主要課題3点を以下にまとめる。

- ①小中高の連携教材である枕草子の現時点での教科書採択状況をオリエンテーション時に提示するか否かを検討する。多くの学生は、これまで自分が小中高で学んできた範囲での枕草子理解にとどまっている。進んで他の章段を読もうという意欲が極めて薄い。現在の教科書採択状況を知ることにより、枕草子全体を読んでみようとする意欲を喚起することができるのではないか。
- ②図書館の活用の仕方、先行文献の読み方を教える段階が必要である。担当する箇所では何が問題となっているのか。どんな資料を提示すれば理解が深まるのか。事前指導が必要なかもしれない。
- ③演習担当ではない授業の予習、授業時の主体的参加を促す方法を考える必要がある。

本橋裕美（2012）は、枕草子の小中高での教材化の現状を踏まえて次のように述べている。

小学校、中学校、高校の国語総合まで、『枕草子』の教材は多様なものを載せているとは言い難い。高校古典の中で様々な章段が扱われはじめるが、『枕草子』は（諸説あるが）章段が三百以上ある。今回、挙げられた章段は三十九段であり（「鳥の空音」は「頭の弁の、職に参りたまひて」と同）、二百四十三段中五十二段が掲載章段として挙がる『徒然草』などと比較するとまだまだ掲載されるべき章段の可能性を秘めているのではないだろうか⁵⁾。

今回の演習授業でも、各グループごとに選んだ2回目の演習箇所は、いわゆる有名章段が大半であった。国語科教員を志す学生達が、枕草子の多様な面白さに出会うためには、まだまだ工夫、改善を重ねる必要がある。例えば、類聚的章段（「……は」型のものづくしの段、「……もの」型ものづくしの段）から複数章段を取りあげる単元構想をさせるといった課題設定も一案であろう。日記的章段については、推定される記事年次ごとに並べ変えて背景を考えながら読んでいくという今回の方法が、枕草子の本質に迫る方法としては有効である。

平成25年度授業からテキストとした、角川ソフィア文庫『枕草子』ビギナーズ・クラシックス日本の古典は、入門書としてのみならず、枕草子研究の入り口としてもまだまだ活用の可能性がある。国語科教員を志望する学生が、枕草子をもっと読んでみたいと思える授業にすることが、今後の授業改善の大前提である。

参考文献

- 枕草子研究会：枕草子大事典、勉誠出版、2001。
松尾聡・永井和子校注・訳：新編日本古典文学全集18枕草子、小学館、1997。
池田亀鑑校訂：枕草子、岩波書店、1962。
角川書店編：ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 枕草子、角川書店、2001。
上坂信男ほか全訳注：講談社学術文庫 枕草子（上中下）、講談社、1999～2003。
萩谷朴：枕草子解環、同朋舎出版、1981。
河添房江ほか：小・中・高一貫教育において古典に親しませる教材とその指導法の開発、東京学芸大学人文社会科学系日本語・日本文学研究講座、2012。

引用文献

- 1) 藤本宗利：「Ⅱ研究・評論史」『枕草子大事典』勉誠出版、823-835、2001。

2) 本橋裕美：「小中高連携教材としての『枕草子』」『小・中・高一貫教育において古典に親しませる教材とその指導法の開発』東京学芸大学人文社会科学系日本語・日本文学研究講座（代表河添房江）、66-75、2012. 以下に、表3a、表3bを引用する。

表3a 『枕草子』教材一覧 小学校（平成23年度版）・中学校（平成24年度版）

作品名	小学校					中学校				
	光村	東書	教出	学図	三省	光村	東書	教出	学図	三省
春はあけぼの	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雪のいと高う降りたるを							○		○	
うつくしきもの								○	○	○
五月ばかりなど山里に歩く										○

表3b 『枕草子』教材一覧 高校 国語総合

作品名	三省	大①	大②	大③	第一	桐原	右文
春はあけぼの		○	○		○	○	
雪のいと高う降りたるを	○		○				
中納言参りたまひて					○		
うつくしきもの		○				○	
五月ばかりなど山里に歩く	○						
虫は			○				
はしたなきもの			○		○		
菖蒲							○
月							○

略称は以下の通り。三省→19版明解総合（19版国語総合・19版新編国語総合においては『枕草子』の記載はない）、大①→20版新編国語総合改訂版、大②→19版国語総合改訂版、大③→21版新編古典改訂版、第一→19版改訂版新編国語総合（19版改訂版標準国語総合・19版改訂版国語総合・19版新訂国語総合古典編）においては『枕草子』の記載はない）、桐原→19版発見国語総合（19版展開国語総合・19版探求国語総合（古典編）においては『枕草子』の記載はない）、右文→15版国語総合。

（『枕草子』を掲載しないもの）

- ・東京書籍（19版新編国語総合・19版精選国語総合・20版国語総合古典編）
- ・教育出版（19版国語総合・19版新国語総合改訂版）
- ・筑摩書房（19版国語総合〔改訂版〕）
- ・数研出版（18版国語総合）
- ・明治書院（19版新精選国語総合）
- ・光村出版（S57版国語Ⅰ・S58版国語Ⅱ）

3) 麻生裕貴：「古典作品教科書掲載一覧」『小・中・高一貫教育において古典に親しませる教材とその指導法の開発』東京学芸大学人文社会科学系日本語・日本文学研究講座（代表河添房江）、76-123、2012.

4) 岡田潔：「古典教材としての枕草子」『枕草子大事典』勉誠出版、851-864、2001.

5) 本橋裕美：2)に同じ